

あるが、彼の例は楽観的過ぎる。多くの学問的研究によって、私たちは具体的なものを深く理解するようになった。それは非常に多くの法則を手にしたことを意味している。しかし、これらの法則から必要なものを選び、再び具体的なものへ帰っていく道筋を私たちは知らない。その理由は、カッシーラーが考えていたのは同じ領域へ帰ることだったのだが、実は彼が考えていたよりも遥かに多くの領域が生み出されたのであり、しかも当然のこととして、帰るべき現実とは多くの領域にまたがって存在しているものであり、円や楕円は

その意味では現実ではなく、領域内に止まる依然として抽象度の高い要素に過ぎないということになるであろう。科学者たちは長い間このことを考えて来た。たとえば国際科学会議 (ICSU) が、既に 1931 年に学問領域の交流をその最重要な目的として設立されたのである。学問領域の細分化は、避けられない傾向であり、したがってそれに対応する方法を常に案出し続ける必要がある。横断型基幹科学は、その意味で歴史的な使命を持つものと考えるべきである。

---

## 横幹連合（横断型基幹科学技術団体連合）の 発足について

真鍋 龍太郎 (文教大学)

横幹連合という学会の連合体が新たにでき、当学会も設立メンバーになりました。

これまで、工学における政策決定に関することや研究費の補助などを、昔からの縦割りの伝統的な工学分野の文化が支配し過ぎているという指摘がありました。2001 年の後半ごろから、比較的に新しい学際的な分野を対象としている複数の学会が横断的に手を繋いで共通の認識を持って新たな研究基盤を作ったり、個々の学会単位では扱いにくい問題に対処していこうという動きがあり、OR 学会にも呼びかけがありました。長谷川利治会長時代に当時の鈴木久敏理事が担当としてそのための発起人会に加わってきました。その発起人会から、純粋の工学の分野だけではなく文系も混じったシステム関連分野の学会にも参加を求めたいという要請がありましたので、経営工学研連の学会にも声を掛けてきました。

その結果 30 の学会が連合することになり、2003 年 4 月 7 日に、横断型基幹科学技術団体連合（略称 横幹連合（おうかんれんごう））が発足しました。発足の主旨については、吉川弘之会長が各参加学会に宛てられたメッセージをご覧ください。

横幹連合は、各学会から推薦された代議員をもって構成される総会が決議機関で、理事会（会長、副会長、6 名以内の理事）が運営にあたります。OR 学会では副会長の真鍋が代議員を務めることに理事会で決定しました。また 4 月 7 日の横幹連合の設立総会で今野浩さんが理事に任命されました。

設立総会に加わった学会は、以下の通りです。

応用統計学会、経営情報学会、計測自動制御学会、システム制御情報学会、社会・経済システム学会、スケジューリング学会、精密工学会、日本応用数理学会、日本オペレーションズ・リサーチ学会、日本信頼性学会、日本感性工学会、日本経営工学会、日本経営システム学会、日本計算工学会、日本計算機統計学会、日本シミュレーション学会、日本シミュレーション & ゲーミング学会、日本社会情報学会、日本植物工場学会、日本デザイン学会、日本統計学会、日本時計学会、日本バーチャルリアリティ学会、日本品質管理学会、日本知能情報ファジィ学会、日本リモートセンシング学会、日本ロボット学会、ヒューマンインターフェース学会、プロジェクトマネジメント学会、文理シナジー学会。